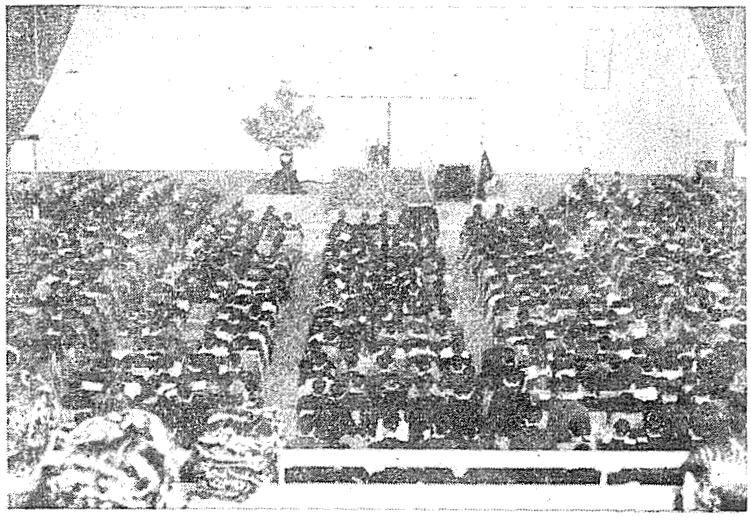
THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

Osaka, March 30th, 1959, No. 325.

關西大學學報

昭和34年3月　第325号

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
昭和三十四年三月三十日発行（毎月一回三十日発行）
通巻三二五号



学士証書授与式

關西大學出版部

日本におけるミルトン文献（Ⅱ）

天野敬太郎
図書館図書課長

9 その他

○英詩鑑賞　評註篇　斎藤勇著
（研究社）四六判　大三2
吾三頁　改訂　昭四1
新版　昭二七
註—On His Having Arrived at the Age of Twenty three; On His Blindness.(Text. Note付)がある

○英詩鑑賞　訳詩篇　斎藤勇著
（研究社）四四七頁　四六判　大三5
三六頁　改訂　昭四1
新版　昭二七
註—「満二十三歳になりて」、「失明の歌」がある

○Longer English Poems.　竹友藻雄
（研究社）　大三五
註—L'Allegro; Il Penseroso; Lycidas の詳しい註がある

○聖歌集　由木康訳編
（新生堂）四六判　昭二8
註—ミルトンがある

○抒情英詩集　中村為治訳
（研究社）三六頁　四六判　昭二9
註—（二〇三—二六頁）On Time; Song on May Morning; L'Allegro; To the Lord General Cromwell. May, 1652; On the Late Massacre in Piedmont; On His Blindness の対訳がある

○十大詩聖詩集と其人々　矢口達著
（教文社）　昭二10
註—ミルトンの十四行詩を中心とする十三篇の訳があるる

ミルトン詩訳抄　尾関岩二
○ミルトン研究　昭二12
○ミルトンの思想と芸術　昭三5
註—輓近ヒード氏モントの殺戮に歌ふ、二十三歳になりて、スキンナー氏に与ふ、彼の書簡につきて、失楽園第一巻

○A Treasury of English Literature.　井手義行編
（富山房）三六頁　四六判　昭三4
註—（一九—五〇頁）L'Allegro; Il Penseroso; Lycidas; On His Blindness; From Areopagitica がある

○The Best English Essays.　大和資雄編註
（大倉広文堂）三〇頁　四六判
註—Milton がある

○English Poetry and Prose 英国詩文選　斎藤勇編
（研究社）　昭二9
註—（九一—一〇頁）L'Allegro; The Poet's Aspiration; Himself a True Poems; On His Blindness; Satan Finds Himself in Hell; Adam and Eve Dyving the Paradise; Patience; The Exercise of Saints の註付がある

Milton's Latin Poems. Elegia sexta
〔邦文〕　米山弘
Aries（関西学院）第三号　昭二12

○ミルトン人生の書　町野静雄訳編
（金星堂）三〇頁　四六判　昭三8

○Passages from English Literature
英文学抄　斎藤勇編
（研究社）三九頁　四六判　昭四11
註—（三四—三五頁）On His Blindness; Satan Finds Himself in Hell がある

○Fifty Famous Poems.　市河三喜編
（研究社）二三頁　B6判　昭八
註—Milton がある

Milton's Tribute to Shakespeare〔訳註〕
日本英学新誌　第七四号　明六6

Hymn on the Nativity　長谷川康
日進英語　昭七1

ミルトンのソネット〔To Mr. Laurence〕
竹友藻風解説
英語の研究と教授（実践理論）
第一巻一号　昭七4

Education 教育〔対訳〕　萩原恭平訳註
英語青年　第六八巻三号　昭七11

Milton's De Doctrina Christiana, by Arthur Sewell.　照山正順
アルビオン（京大）第二巻二号　昭九9

A Poet's Ideal 詩人の理想〔対訳〕
大和資雄訳註
英語青年　第八一巻九号　昭四8
註—Apology for Smectymnus (1642) からの抜萃

Milton's Tractate of Education
〔邦文〕　須沼吉太郎
英語の研究と教授（実践理論）
第八巻一一三号　昭五2

B ミルトン関係文献

1 書誌

ミルトン参考書目　斎藤勇
○心潮を中心とする英文学史（研究社）　昭二11

ミルトン参考書目　斎藤勇
○中心の潮英文学史（研究社）新版　昭四11

John Milton（研究書案内）　繁野天来
英語青年　第六六巻八号　昭七1

ミルトン研究書概観、参考書目
繁野政瑠
○ミルトン「失楽園」研究（研究社）　昭七11

日本に於けるMilton紹介の跡を辿る
豊田実
英語英文学論叢（文広理島）第四号　昭八4

Milton著作年鑑、失楽園刊行書史、参考書　岩橋武夫
○失楽園の詩的形而上学　昭八5

ミルトン紹介研究の跡　豊田実
○日本英学史の研究（岩波書店）　昭二四2

スペンサー、ダン及びミルトン研究概観　中桐宣也
明治学院論叢　第三七号一輯　昭三七11

ミルトン主要書目
テイリヤード著、御興員三訳
○ミルトン（研究社）　昭二4

2 欧米人のミルトン評伝

(Arnold) ミルトンを語るアーノルド
斎藤信一
主流（大同志学社）第六号　昭二六3

ミルトン　アーノルド、石田仁訳
○文化批評の機能（思索社）　昭三10

(Belloc) BellocのMilton論　宮西光雄
アルビオン（京大）第三巻五号　昭二3
註—Hilaire Belloc: Milton.の紹介

(Blake) Blake "Milton"に就いて
佐藤清
英文学研究（東大）第七巻三号　昭二7

ブレイクの「ミルトン」　佐藤清
○英詩の精髄（研究社）　昭五9

ブレイク作「ミルトン」の巻数
　英語青年　第五九巻二号　楳垣実　昭三9

ブレイクの長詩「ミルトン」
　英文学研究(東大)第三巻一号　土居光知　昭一12

(Brook)○概観英吉利文学史
　ブルック著、太田鎖九一訳
　三六三頁　四六判　大三

○ブルック英文学史　石井誠訳
　(東光閣書店)三六〇頁　四六判　大一四12
　註―チョン・ミルトンの項がある

(Brown)失明者の失明詩人研究
　アルビオン(京大)第一巻四号　宮西光雄　昭一〇1
　註―Eleanor G. Brown: Milton's Blindness. 1934の紹介

(Coleridge) Miltonを語るColeridgeの立場に関する一の覚書　加藤竜太郎
　同志社文学　第三五号　昭七12

(Eliot) T. S. Eliot の Milton 論
　アルビオン(京大)第四巻三号　佐藤十八　昭二11
　註―A Note on the Verse of John Milton の紹介

現代ミルトン研究―TSエリオットを中心として　中桐宣也
　明治学院論叢　第二一号　昭二六2

TSエリオットのミルトン観の変遷
　人文(京大)　第一号　角倉康夫　昭三〇1

ミルトンとTSエリオット　佐藤清
　英文学思潮(学習院)第六巻一号　昭三〇6

T. S. Eliotの「ミルトン論」
　アルビオン(京大)　第四号　玉木意志太年　昭三3

(Fraser) The Cast of Milton's Greatness―ミルトンの偉大さ(対訳)
　G. S. Fraser　平井正穆訳註
　英語青年　第九七巻一一二号　昭二六1

(French)歴史家としてのミルトン
　アルビオン(京大)　第三巻一号　秋元実　昭一〇9
　註―J. Milton French: Milton as a Historian の紹介

(Grierson) Milton と Wordsworth
　アルビオン(京大)第六巻一号　山村武雄　昭一三7
　註―Herbert J. C. Grierson: Milton and Wordsworth, Poets and Prophets の紹介

(Johnson) Lives of the English Poets. Vol. 1. Milton.
　Samuel Johnson　福原麟太郎註釈
　研究社英文学叢書　B6　昭一八
　研究社英米文学叢書　六六頁　昭一二12

(書評)　L・L
　英語青年　第九〇巻九号　昭一九9

(Macauley) ○ミルトン論の批評
　三浦鴻礼著、吉田直太郎訳
　(富山房)　三六頁　四六判　明三〇6

○彌爾牧論
　Lord Macauley　平井広五郎訳
　(京都、河合文港堂)　二四頁　明三7

ミルトン論
　Lord Macauley　磯部彌一郎訳註
　国民英学新誌　第二巻　明三

"Milton." By Lord Macauley.
　国民英学新誌　第二巻　浦上万之助　明三

マコーレー「みるとん」評註、註釈
　日本英学新誌　第八一―八六号　明三六7

John Milton. By Lord Macauley.
　西崎一郎編
　(北星堂)　昭二〇

(Moulton)モルトン世界文学及び一般文化に於ける其の位置　本多顕彰訳
　(岩波書店)　三一三頁　菊判　昭九11
　註―ミルトンの項がある

(Murry) キーツとミルトン(J・Mマリイの所説)　渡辺徳訳
　ユニコン　昭一五8

(Racine) Racine の観た Milton　西川融
　京城帝大英文学会会報　昭六4

(Sewell) Milton and the Mosaic Law. By Arthur Sewell.　(署名ナシ)
　アルビオン(京大)第二巻六号　昭一〇5

(Sinclair) 清教徒礼讃―ミルトン
　アプトン・シンクレア、清水宣訳
　○新世界文学史(アルス)　昭一五7

(Smith, J. C.) J. C. Smith: Feminine Endings in Milton's Blank Verse (海潮音)(紹介)
　アルビオン(京大)第四巻五号　昭一三3

(Smith, L. P.) L. P. Smith: Milton and his Modern Critics および最近におけるミルトン批評の動向　後藤和夫
　近代(神戸大学)　第六号　昭元1

(Strong) 宗教改革の詩人ミルトン
　エ・エーチ・ストロング著、佐藤清訳
　(下関、福音書館)　八一頁　大一三3

(Swinton)○英文学詳解　上巻　岡村憲蔵訳註
　(興文社)　一三〇頁　明四四10
　註―John Milton 小伝、チャニングの評論、Three Poets on Milton. 1. L'Allegro. 2. Il Penseroso. 3. Milton's Proses.(原文付)あり

(Taine)○シェイクスピアからミルトンまで　テーヌ著、平岡昇、河内清訳
　(大山書店)　三六頁　菊判　昭一三4

○英国文学史　第一巻
　創元叢書　三四頁　テーヌ著、平岡昇訳
　註―ミルトンの項がある　B6　昭一八1

(Tillyard) Milton. By E. M. W. Tillyard.(紹介)　(署名ナシ)
　英語青年　第六四巻四号　昭五11

○ミルトン　テイリヤード著、御輿員三訳
　(研究社)英文学ハンドブック　昭一三4

(Villiers de l'Isle-Adam) ミルトンの娘達　リラダン稿、グウルモン補
　宗教と芸術　第一〇巻五号　由井知郎訳　昭四11

3　邦人のミルトン評伝

○泰西名士鑑　乾立夫、中原淳蔵訳
　(小泉堂)　三四頁　四六判　明一三11
　註―戎彌爾頓の項がある

詩人ジョン・ミルトンの伝
　文学雑誌　第一巻六号　明一八11

ジョン・ミルトン　渺茫居士
　江湖新聞　第一一一四号　明三三2

美覚頓　北村三郎
　○世界百傑伝(博文館)　明三三8

ミルトン　善福散史、淡江保編述
　○位少年鑑神童(博文館)　明三四1

ミルトン　淡江保
　○英国文学史　(博文館)　明三四1

詩人ミルトンの妻　島の春(島崎藤村)
　女学雑誌　第三〇四号　明三五2
　○島崎藤村全集(新潮社)第一巻　昭一五10

ミルトン　山田武太郎(美妙)
　○万国人名辞書(博文館)　上巻　明三六7

○盲詩人　別天楼主人(長沢説)著
　(政教社)　三六頁　菊判　明三七5

(書評)　高橋五郎
　国民之友　第三五号　明三七5

ミルトン　大和田健樹
　○英米文人伝(博文館)　明三七9

詩人ミルトン夫妻　民友社　明二六10
ミルトン　○名士と家庭(民友社)　峰是三郎訳述　明二六11
ミルトン　○欧米大家教育指針(博文館)　西村真次　明三三6
ミルトン　○東西偉人伝(大阪、矢島誠進堂)　坪内雄蔵　明三四6
ジョン・ミルトン　○英文学史(東京専門学校出版部)　風間礼助抄訳　明三四12
ミルトン　○偉人俯養録(文武堂)　樗牛　明三三
盲目のミルトン(西画解題)　高山樗牛全集(増補縮刷)　第六巻　大五9
ミルトンの影響　○欧洲文学思潮(早大出版部)　中島茂一　明三三、三七
ミルトンの原稿　国民新聞　明三七、一、三〇
ミルトン　○世界三十六文豪(中学世界定期増刊)　繁野天来　明三六9
ミルトン　○日本家庭百科辞彙　芳賀矢一、下田次郎編　明三九11
ミルトン　○同　改訂増補　下巻　大元11
ミルトン　○英文学史(大日本図書株式会社)　浅野和三郎　明四〇2
ミルトン　○英国文学史(博文館)　栗原基、藤沢周次編　明四〇2
ミルトン　○英文学講話(東亜堂)　戸川秋骨　明四一11
ミルトン雑話　英語青年　第三〇巻五号　夏目漱石　明四一12
○漱石全集　第一八巻　昭二4
ミルトン　○英文学史大観(青山学院)　舟橋雄　明四四
コーマスを読みてミルトンをおもふ　別所梅之助
○仮面劇コーマス(菱沼平治訳)　大三
○地に跡を印した人々(警醒社)　大一〇5
ミルトンの教育思想　○近代教育思想史　入沢宗寿　大三5
清教徒とミルトンの自由論　○自由思想史(天弦書房)　大住嘯風　大五1
杜甫と彌耳敦　国民新聞　徳富猪一郎　大五秋—六春
○杜甫と彌耳敦(民友社)　七〇、三三頁　徳富猪一郎著　菊判　大六9
○世界の二大詩人(宝雲舎)　六〇〇頁　B6判　徳富猪一郎著　昭一四4
ミルトン　○日本百科大辞典　第九巻　藤代禎輔　大七4
泰西文聖伝—ミルトン　真青年　小川隆四郎　大一〇8 9 10
清教派詩人の泰斗ジョン・ミルトン　小日向定次郎
○英学文史(黎明期よりミルトン時代まで)　多田憲一　大三10
ジョン・ミルトン　○英傑伝集(大日本経済協会)　第一巻　昭二
ミルトン　○英文学史要(泰文社)　横山有策　昭二
ミルトンの無韻詩に就いて　文学思想研究(早大)　第五巻　繁野政瑠　昭二7
John Milton〔邦文〕　斎藤勇
○思潮を中心とする英文学史(研究社)　昭二11
○思潮を中心の英文学史(研究社)　新版　昭四11
○ミルトンの生涯　(ミルトン研究、第一篇)　畔上賢造著　(警醒社)　三七〇頁　新四六判　昭二11
○ミルトン研究　(スキア書院)　三五〇頁　四六判　尾関岩二著　昭二12
○ミルトンの思想と芸術　(緑蔭社)　一五〇頁　三六判　尾関岩二著　昭三5
ジョン・ミルトン　○英国自然美文学の研究　金子健二　昭三4
ジョン・ミルトン　○史的講話趣味の英文学(桜木書房)　三木春雄　昭三4
ミルトン　○思想家人名辞典(春秋社)　春秋社　昭三4
ミルトンの文芸思想　○文芸辞典(大思想エンサイクロペディア)　春秋社　昭三7
ミルトンの翻訳　世界文学月報　第三号　日夏耿之介　昭四11
「失楽園」に就いて　世界文学月報　第三号　土井晩翠　昭四12
同(改題)ミルトンについて　○雨の降る日は天気が悪い　土井晩翠　昭九9
明治初期のミルトン　世界文学月報　第三三号　柳田泉　昭四12
自然描写に於けるミルトンと沙翁　英語青年　第六三巻一二号　浦口文治　昭五3
ミルトン　○世界文学講座4(英吉利文学篇下)　繁野天来　昭五11
出版の自由に対するミルトンの功績　英語研究　第三巻一二号　石井真峰　昭六3
Milton の simile　京城帝大英文学会会報　西川融　昭六6
Shakespeare 及び Milton の Ptolemy 派の天文観　英語研究　第一四巻八号　浦口文治　昭六11
ミルトンの筆蹟　英語青年　第六六巻八号　(署名ナシ)　昭七1
ミルトンと繁野天来氏　都新聞　(署名ナシ)　昭七、四、二九
John Milton〔邦文〕　竹友藻風
英語の研究と教授(東京文理)　第一巻三—七号　昭七6
日本に於ける Milton 紹介の跡を辿る　英語英文学論叢(広島文理)第四号　豊田実　昭八5
Warton 編 Milton's Minor Poems.　斎藤勇
英語青年　第六六巻八号　昭八7
註—Poems upon Several Occasions. Ed. by Thomas Warton. London 1785の紹介
○John Milton.〔邦文〕　斎藤勇著　(研究社英米文学評伝叢書11)　(研究社)　一五〇頁　菊半截　昭八10
〔書評〕
英語青年　第六三巻二号　Q・V　昭一四10
ミルトン　○大百科事典　第一四巻　日高只一、堀口五郎　昭八11
○新撰大人名辞典　第八巻　昭一三5
ミルトンの無韻詩に於ける Trisyllabic foot　稲英　石渡秀男　昭一〇1
天路歴程に現れた Puritanism　アルビオン(京大)第三巻一二号　宮西光雄　昭一〇9
Milton と Bunyan(読書法)　R・R・R　英語青年　第七三巻一二号　昭一〇9
Milton's "Night-Raven"〔邦文〕　竹友藻風　英文学研究(東大)　第一六巻　昭一一5
Milton's Cottage Imperilled. Japan Chronicle　昭一一、七、二六
Milton の進化論的思想　アルビオン(京大)第四巻二号　宮西光雄　昭一一9
Milton〔邦文〕　竹友藻風
○英文学史(神戸、川瀬日進堂)　昭一一9

音楽愛好家としてのミルトン　原島　善衛
オペロン　第四号　昭二一11

ミルトン　（署名ナシ）
○国民百科大辞典　第三巻　昭二三3

Milton〔邦文〕　植田　虎雄
○研究社英米文学辞典　昭二三10

ミルトン　豊田　実
○世界文芸大辞典　第六巻　昭二二11

ミルトン時代　小川　二郎
英語教育　第三巻三月号　昭二三3

Milton　研究の問題（英米文学新声）　N・R・T
英語青年　第七五巻四号　昭二五5

Milton and Diodati〔英文〕　越智　文雄
英文学研究（東大）第二八巻四号　昭二三11

Milton's Taste and Doctrine of Music〔英文〕　原島　善衛
英文学研究（東大）第二八巻四号　昭二三11

ミルトンの話　菊池　武一
むらさき　第五巻二号　昭二三12

ミルトン　城戸幡太郎
○教育学辞典　第四巻　昭二四1

○青少年期のミルトン　越智文雄著
（同志社英文学会）同志社文学パンフレット　昭二四

ミルトン紹介研究の跡　豊田　実
○日本英学史の研究（岩波書店）　昭二四2

文芸批評家としての Milton及びShakespeare 批評　佐藤　清
英文学研究（東大）第二九巻三号　昭二四8

Milton 其の他（英米文学新声）N・R・T
英語青年　第八二巻二号　昭二四10

Florence に於ける Milton　越智　文雄
英文学研究（東大）第二〇巻一号　昭二五2

ミルトンに就いて　山村　武雄
昭和高等商業学校研究部報　第五輯　昭二六2

ミルトン（海潮音の中）　K・K
アルビオン（京大）第七巻五号　昭二六7

Milton's View of Rome〔英文〕　越智　文雄
英文学研究（東大）第三一巻四号　昭二七4

ミルトン　中川芳太郎
○欧羅巴文学を併せ観たる英文学史（研究社）　昭二八10

ホートン時代のミルトン　橋爪　洋
神戸外専時報　昭二三1

ミルトンの神話考　植木　敏一
兵庫県師範学校教育研究所紀要　昭二三12

ミルトンの詩人論　大和　資雄
○英文学の鑑賞（研究社）　昭二四11

詩人 John Milton の Homer 理解—特に Elegia II: 19 に於ける "pondus inutile terrae" の出典と形成をめぐって　越智　文雄
同志社女子大学術研究年報　第一巻　昭二五11

現代ミルトン研究　中桐　宣也
明治学院論叢　第二輯　昭二六2

近代的予言について—ミルトンを中心として　加納　秀夫
○イギリス浪漫派詩人（研究社）　昭二六7

英詩人ミルトンのユニテリアン的宗教思想　加藤　猛夫
創造　昭二六10—二七2

ミルトンの女性観　植木　敏一
神戸大学教育学部研究集録　第三集　昭二六10

Milton の詩に於ける体験と想像—"mountains" のイメージ展開を中心に　越智　文雄
同志社女子大学術研究年報　第二号　昭二七1

ミルトン、ドライデンとその周囲　竹友　藻風
英語英文学講座（河出書房）　第五巻　昭二七4

西欧古典文学の背景—十七世紀文学と天文学—ミルトンの宇宙創成誌と地獄　村尾力太郎
早稲田商学　第一〇〇・一〇一号　昭二七9

Milton's Juvenilia　黒田健二郎
愛媛大学紀要　人文科学　第一巻三号　昭二七12

イギリス十七世紀の作家達　甲斐　弦
ロゴス（熊本短期大学）　第四号　昭二七12

ミルトンのキリスト教思想　斎藤　勇
神学（東京神学大学）第五号　昭二八1

'Phoebus Apollo" と "The Music of the Sphere"—Milton の Minor Poems に於ける Image について　中桐　宣也
明治学院論叢　第二九号　昭二八6

○ミルトン研究　越智文雄著
（同志社大学出版部）　三四五頁　昭二八6

〔書評〕　R・V・W
英語青年　第九九巻二号　昭二八11

〔書評〕　宮西　光雄
アルビオン（京大）　第三号　昭二九3

〔書評〕　平井　正穂
英文学研究　第三巻一号　昭二九12

Milton の Simile—Paradise Lost を中心として　成瀬　正幾
神戸商科大学紀要　第一号　昭二六9

Milton　平林　二郎
英語教育　第二巻七号　昭二六10

ミルトン私観　柳生　直行
関東学院短大論叢　第四輯　昭二六11

Milton-Oldenburg 書簡の含む幾つかの問題　越智　文雄
同志社女子大学術研究年報　第四号　昭二九2

Milton に於ける所謂善と悪の相剋　越智　英二
広島大学文学部紀要　第五号　昭二九3

ミルトンの芸術性について　宮西　光雄
英文学評論（京大）第一輯　昭二九3

ミルトンと現代　後藤　和夫
（神戸大学文学会）研究　第五号　昭二九3

アメリカにおけるミルトン批評の性格　植木　敏一
神戸大学教育学部研究集録　第八集　昭二九3

Milton and Chastity〔英文〕中桐　宣也
明治学院論叢　第三四号一輯　昭二九10

現代ミルトン批判　中桐　宣也
明治学院論叢　第三四号一輯　昭二九10

ミルトン　平井　正穂
研究社世界文学辞典　昭二九10

ミルトンの女性観　西島　正
青山学院女子短期大学紀要　第三輯　昭二九11

ミルトンにおける市民社会思想と自然法思想—「市民社会の論理」の探求　豆本　薫
滋賀大学学芸学部紀要第四号　昭二九12

ミルトンと今後の英詩　後藤　和夫
近代（神戸大学）　第一〇、三号　昭三〇1・9

ミルトンと明治文学　竹友　藻風
英語青年　第一〇一巻二—三号　昭三〇2・3

Milton と Heimbach との交換書簡について　越智　文雄
同志社女子大学術研究年報　第五号　昭三〇2

脚韻から推したミルトンの発音—ME. a　荒木　一雄
Athenaeum Vol. 2, No. 2　昭三〇

ミルトンの女性観　大山　敏子
○女性と英文学（篠崎書店）　昭三〇5

イングランド革命とジョン・ミルトン—特にクロムウェルの関係で　豆本　薫
滋賀大学学芸学部紀要第五号　昭三一2

Bunyan 対 Milton—未来思想と現世の生活　永嶋　大典
西南学院大学文学論集　第三巻一・二号　昭三11
英国共和制時代におけるジョン・ミルトンの民主々義思想　加藤　猛夫
大阪大学文学部紀要　第五号　昭三3
ブラウンとミルトン　長谷川四郎
茨城大学文理学部紀要　人文科学　第七号　昭三3
現代におけるミルトン再評価　宮西　光雄
英文学評論(京大)　第四輯　昭三3
Miltonic Style とその批評　加藤　さだ
アカデミア(南山大学)　第八輯　昭三8
ミルトン—近代への扉　福原麟太郎
英語青年　第一三巻一〇—一三号　昭三10

追　加

A　ミルトンの著作

ラレグロ　〔磯部彌一郎訳〕
中外英字新聞　第　巻　号　明
ラレグロ　岡村愛蔵訳註
○英文学詳解(Swinton著)上巻　明四10
ラレグロ　町野静雄訳
○ミルトン人生の書(金星堂)昭一三8
イルペンセロソ　〔磯部彌一郎訳〕
中外英字新聞　第一八巻一一号　明四7
イルペンセロソ　岡村愛蔵訳註
○英文学詳解(Swinton著)上巻　明四10
イルペンセロソ　町野静雄訳
○ミルトン人生の書(金星堂)昭一三8
コーマス　菱沼平治訳
○菱沼先生遺稿集(修文館)　昭一四7
コーマスを読みてミルトンをおもふ　別所梅之助
護　教　大五七七
コーマス　中山　昌樹
婦人之友　大一四11
「仮面劇コーマス」を読みて　出野　彰夫
芸　文　第八年五号　大六5
リシダス　上田　敏訳
○世界恋愛詩集(堀口大学編、羽田書店)　昭一六7
リシダス　竹友藻風訳
○法苑林(大阪、潮人社)　昭一六11
リシダス　町野静雄訳
○ミルトン人生の書(金星堂)昭一三8
Lycidas—この全なるもの　福田　民男
広島大学教養部紀要　第六巻　昭
アレオパジチカ　町野静雄訳
○ミルトン人生の書(金星堂)昭一三8
パライダイス・リゲインド　畔上賢造訳
○畔上賢造著作集8　昭一五
ミルトン楽園回復物語　中山　昌樹
婦人之友　大一四10
土師記の Samson と Milton の Samson　清水　護
英語青年　第八六巻二号　昭一六10

Paradise Lost

パラダイスロスト　磯辺彌一郎訳
英文学講義録　明三五
ミルトン氏失楽園　井上　活泉
○英詩訳吟　明四12
ミルトン失楽園　馬場　睦夫
東亜之光　第一五巻三号　大九3
失楽園　平林松雄等
○世界名著解題(太陽堂)　昭二7
○名著解題大辞典(太陽堂)　昭六7
失楽園物語　繁野　天来
○世界文学物語(富山房)　大二12
○失楽園の大魔王サタン　黒田星外著
紅葉堂書店　二七八頁　四六判　大二4
盲目になつて書かれた古今の大作—ミルトン　浅原　鏡村
○世界天才異聞集(実業之日本社)　大三12
ミルトン失楽園　中山　昌樹
婦人之友　大一四7
ミルトンの失楽園について　帆足理一郎
文芸春秋　第四巻三号　大一五5
美留頓　人類の始祖の俤　住谷　天来
○人生の歌(一粒社)　昭一〇4
○ミルトン失楽園画集　ギュスタヴ・ドレエ画
(野口書店)　帆足理一郎解説　昭二四1
○絵本失楽園物語
ギュスターヴ・ドレ画　繁野天来編
富山房百科文庫　一五〇頁　昭一五3
失楽園の一句　武信由太郎
英語青年　第二〇巻五号　明四12
「パラダイスロスト」に就て　塩谷　栄
英語青年　第二〇巻六号　明四12
○英詩英文の貧弱そゝろあるき(至文堂)　大五2
失楽園に就て　馬場　孤蝶
英語青年　第二〇巻六号　明四12
"Paradise Lost" の first draft に就て　木方　庸助
英語青年　第三巻二号　大四3
ミルトン「失楽園」の初版　斎藤　勇
英語青年　第四巻五号　大四12
「失楽園」の翻訳二つ　S・G・N
英語青年　第六巻三号　大一五1
Paradise Lost に現われたる二三の特殊語法　栗原　保夫
オベロン　第三号　昭八
Milton's Paradise Lost and the Bible
〔英文〕　金子ヒサカズ
英米文学　第八号　昭一一9
失楽園　平井　正穂
○文学講座(筑摩書房)第六巻
作品論　昭一六12
ミルトンの諷刺精神と "The Paradise of Fools" について　越智　文雄
同志社女子大学術研究年報　第七号　昭三12
アダムとイヴ—「失楽園」研究　2　森安　綾
(関西学院短大英文科)論叢第六(終刊)号　昭三
「失楽園」研究　3　森安　綾
関西学院大学英米文学　第二巻三号　昭三11

その他

学問の目的 On Learning〔対訳〕　加納秀夫訳註
英語青年　第七五巻三号　昭一四3
註—On Education の一節　平林松雄等
教育論
○世界名著解題(太陽堂)　昭二7
○名著解題大辞典(太陽堂)　昭六7
ジョン・ミルトンの詩集　井上増吉訳
○貧民詩訳論(八光社)　大一三12
On the Morning of Christ's Nativity　双田穣訳註
英語研究　第一五巻一〇巻　大一三1
キリスト降誕の朝(序詩) On the Morning of Christ's Nativity　八木毅訳註
英語研究　第六巻三号　昭一四12

五朔朝吟 Song on May Morning　石川林四郎訳註　〔対訳〕英語青年　第三巻四号　大四5

○随誦随訳　井上　治泉　開拓者　第二巻　号　大五8

註—Milton, Cowper 等の詩句漢訳

書籍を論ず　福田　吉蔵

○文豪名文集(対訳、一鷗堂書店)　大六3

ジョン・ミルトン　真下信一編

○愛に関する七十二章(三一書房)　昭三10

B　ミルトン関係文献

1　書　誌

日本に於けるミルトン　加藤　猛夫

○近代詩の史的展望(山宮允教授華甲記念文集、河出書房)　昭元3

2　欧米人のミルトン評伝

(Coleridge) Coleridge の Shakespeare および Milton 批評　佐藤　清　英文学思潮(青山学院)第元巻一号　昭三1

(Macauley)マコーレー氏ミルトン論註釈　中外英字新聞第一〇巻二二八号　明三6

(Macy)ミルトン　マーシー　内山賢次訳　○世界文学物語(アルス)　大一五10

(Read)ミルトン　ハーバート・リード、飯沼　馨訳　○最後のボヘミア人(芸術論集第二巻、みすず書房)　昭三04

(Rickword)革命的知識人ミルトン　エヂエル・リックワード、田村秀夫訳　○イギリス革命(クリストフア・ヒル編、創文社)　昭三11

(Whiting)George Wesley Whiting の批評と伝統　植木　敏一　神戸大学教育学部研究集録　第一四集　昭三1

(Wordsworth)ウォーズウォースがミルトン追懐の詩　増田藤之助　英語青年　第一〇巻七号　明四1

邦人のミルトン評伝

ミルトン　関　貢米(露香)　○詩人と恋(岡崎屋書店)　明三9

ミルトンの隠れ家ペンの会堂　近角　常観　○信仰問題(文明堂)　明三七2

ミルトン誕辰三百年記念号　其一、二　英語青年　第一〇巻五—六号　明四12

ジョン・ミルトン略伝　英語青年　第一〇巻五号　明四12

ミルトンの想い出　島村　抱月　英語青年　第一〇巻五号　明四12

教育家としてのミルトン　増田藤之助　英語青年　第一〇巻五号　明四12

ミルトン　畑　功　英語青年　第一〇巻六号　明四12

ミルトンの詩に就て　戸川　秋骨　英語青年　第一〇巻六号　明四12

ミルトン自叙伝　増田藤之助　英語青年　第一〇巻六号　明四12

ミルトンの出現と英国ロマンチシズムの起原　片上　天弦　英語青年　第一〇巻六号　明四12

青春のミルトン　平田　禿木　英語青年　第一〇巻七号　明四1

ミルトンとサルメーシヤスとの論戦　増田藤之助　英語青年　第一〇巻七号　明四1

ミルトンと天候　西沢　富則　○欧洲文芸界之逸話—文豪の部(大同館書店)　大二6

基督者としてのミルトン　尾関　岩二　新人　第一〇巻　号　大八9

国家主義—自由の詩人ミルトン(英詩に於ける国家観念の発達も論ず)　斎藤　勇　英文学研究(東大)第一冊　大九2

同　(愛国心から国際心へ)　○国際思想と英米文学(山海堂)　昭三10

宗教界の偉人ジョン・ミルトン　畔上　賢造　雄　弁　第一三巻一号　大一1

聖雄ミルトン　畔上　賢造　雄　弁　第一三巻四号　大一4

ミルトンに就ての偶感　久保　謙　心の花　第一七巻四号　大三4

A Newly discovered Milton's Script　大三、一一、三　Japan Chronicle

ミルトンによる良詩の条件　伊東勇太郎　○英文学研究の道程(大同館)昭七7

ミルトンの異端論　畔上　賢造　日本聖書雑誌　昭九3

ミルトンと自由　畔上　賢造　日本聖書雑誌　昭一〇3

Milton and Liberty〔英文〕福世　正治　英文学研究(東大)第一七巻四号　昭三11

ミルトンとガリレオ　野尻　抱影　○星と東西文学(研究社)　昭三

○青少年期のミルトン　越智文雄著　〔書　評〕　S N M　英語青年　第八三巻一号　昭一五8

ミルトンの生涯　畔上　賢造　○畔上賢造著作集　第九巻　昭一五9

ミルトンの国民弁護論　山本　忠雄　○英国民と清教主義(大阪、京極書店)　昭一八3

イギリス革命とミルトン　鈴木　正四　○市民革命の研究(三一書房)昭三12

ミルトンの政治思想とその社会性　糸曽　義夫　西洋史学　第七号　昭三五10

ミルトンと占星術(西洋古典文学の背景4)　村尾力太郎　早稲田商学　第九号　昭三六9

自由と人権のために—ミルトンに寄せて　矢内原忠雄　改　造　第三巻四号　昭元4

ジョン・ミルトン　坂本　重武　○信仰偉人群像　近世篇(金井為一部編、ヨルダン社)　昭元12

日本に於けるミルトン　加藤　猛夫　○近代詩の史的展望—山宮允教授華甲記念文集(河出書房)　昭元3

ミルトンと神に関する一考察　宮西光雄　海潮音　第九号　昭三09

ミルトン最後のソネットについて　宮西　光雄　英語往来　第三号　昭三2

ミルトンの詩論　宮西　光雄　○英国の詩論(深瀬基寛編、京都、山口書店)　昭三2

○西洋文学入門　本多　顕彰　章文社　昭三7

註—ミルトンあり

ミルトンと独人 Hermann Mylius　越智　文雄　同志社女子大学術研究年報　第八号　昭三12

追加については、山口基、品川力、宮西光雄、越智文雄、藤井啓一、植木敏一、加藤猛夫、竹内市子の諸氏の御教示に負うところが多いので、ここに感謝の意を表します。

学内報

定例評議員会

学校法人関西大学寄附行為第十八条第二項による定例評議員会は、三月二十八日(土)午後三時より天六学舎で開催。

昭和三十四年度学校法人関西大学歳入出予算承認に関する件その他につき審議、これを可決した。

出席者(敬称略、五十音順)

阿部甚吉、今井康兼、岩佐清三郎、植野郁太、越智比古市、大小島真二、大島武夫、大森俊次、岡野留次郎、岡野衛士織田佐代治、樫本信雄、門上敏夫、神宅賀寿恵、寒川喜一、川口勇、小寺小市郎小林巌、佐伯五郎、白川朋吉、関豊馬、高椋正次、竹沢喜代治、中務平吉、浪江源治、西村治三郎、西本寛一、東浦栄一久井忠雄、福島四郎、堀正人、松村睦鴻水谷撰一、宮崎平、村尾静明、村上精三森寛紹、森川太郎、矢口孝次郎、保井剛一、矢野文雄、山崎敬義、横田健一、脇野徳三郎、渡辺正人

第三十六回学士証書授与式

関西大学第三十六回学士証書授与式は三月二十日(金)、一部・二部共、経済学部、商学部が午前十時より、法学部、文学部が午後二時から、それぞれ千里山第一学舎講堂で、学歌斉唱、学長告辞、理事長挨拶、文部大臣、教育後援会長及び校友会長祝辞、証書授与、学友会功労者賞状並びに賞品授与等の式次第で、厳粛に挙行された。(表紙写真参照)

昭和三十三年度学士試験合格者数は左の通りである。

	一部	二部
法学部	五九四	三二九
経済学部	五七四	二二二
文学部	二五一	七二
商学部	三五五	一〇二

なお、学校法人関西大学の設置する関係学校の卒業式も左の通り行われた。

三月二十四日　午前十時　大学院
三月　一日　午前十時　第一高等学校
三月十九日　午前十時　第一中学校

学校法人関西大学 財産評価委員会規程制定施行

理事会では一月二十七日(水)、「学校法人関西大学財産評価委員会規程」を制定、施行した。

なお、財産評価委員には左の各氏が選ばれた。

住友信託銀行本店不動産部長　中西　兵二
大和銀行本店信託部次長　勝　清一
佃土地株式会社々長　佃　順蔵
万年社々長　三宅　通夫
関西大学理事　西村治三郎

学会出張

◇工学部川手昭平専任講師、今井弘助手は十一月二十一日から二十四日まで中央大学における日本化学会に出席。

◇文学部石渡俊一教授は十一月二十二日から二十三日まで日本体育大学における日本体育学会に出席。

◇文学部友松芳郎専任講師は二月二十七日から三月四日まで東京上野科学博物館における科学史学会に出席。

◇文学部有阪隆道助教授は三月十三日から十七日まで東京大学及び早稲田大学における地方史研究者協議会に出席。

海外の大学より

B・I・Mより 機関誌その他寄贈

本年初頭から団体会員として加入したイギリス経営協会(British Institute of Management)から、この程左記機関誌その他を寄贈して来た

British Institute of Management, Management Information Service.
Management Seminer Programme, October 1958-April 1959.
The Manager, The Journal of The British Institute of Management, December 1958 (Vol.26,No.12)
January 1959 (Vol. 27,No. 1.)
February 1959 (Vol.27, No.2)

アメリカ法学部協会より 雑誌寄贈

本学法学部と図書交換を行っているアメリカ法学部協会(Association of American Law Schools)より、この程左記機関誌を寄贈して来た。

Journal of Legal Education, Vol. II, Nos. I & 2, 1958.

法学者国際委員会より 図書寄贈

ヘーグの法学者国際委員会(International Commission on Jurists)より、この程左記図書を寄贈して来た。

The Rule of Law in the United States, (A Statement by the Committee to cooperate with the International Commission of Jurists, by The American Bar Association & Section on International and Comparative Law), 1958.
The Rule of Law in the Federal Republic of Germany, (A Statement by the German National Section of The ICJ), 1958.
The Rule of Law in Italy, (A Statement by The Italian National Section of The ICJ), 1958.

ピッツバァーク大学出版部より 図書寄贈

ピッツバァーク大学出版部(University of Pittsburg Press)より、本学出版部宛左記図書を寄贈して来た。

Frederick L. Gwynn & Joseph L. Blotner, The Fiction of J. D. Salinger, 1958.

昭和三十三年度卒業論文題名（3）

——文学部——

現代に於ける広告の効果と倫理について　坂口　哲朗
化粧品広告における新聞、雑誌、ラジオ、テレビについて　高松　守章
我国の新聞と週刊誌　高田　由樹
現代のマス、メディアについて　橋本　厚美
広告が与える消費者利益について　平井　常之
将来における広告宣伝（一部）のあり方
—心理学的考察—　真鍋　覚
現代新聞（一般紙）の一限界　毛利　武憲
世論と新聞「世論の本質と理代新聞の世論」　山中　広徳

東洋文学科

孔子研究　金沢　宏
孟子について　斉藤　繁
李白について　坂上　彰
孟子王道論　吉原　正作
儒家思想について　副題（儒家諸子の学説比較）　今戸　章夫
孟子—その思想について—　竹田　憲史

二部

英文学科

E.M. フォースターのヒューマニズムについての一研究　青木　俊子
チャールズ・ラムについて　東　良一
ホイットマンの「草の葉」を通しての彼の思想　阿野　三郎
ヘミングウエイ作品研究「武器よさらば」　飯田　啓一
シェイクスピアーの四大悲劇について　入一　寛
A STUDY ON GRAMMATICAL CHANGES PRESENT DAY ENGLISH　岩田　勇二
「オセロ」におけるシェイクスピアの意図について　岡崎　祥男
英語の母音について、—主にその変化について—　小田　武彦
シェイクスピア悲劇作品研究。—「マクベス」を主として—　紙野　亘雄
パール・バックと作品「大地」について　河辺　冨子
シェイクスピアのマクベス研究について　木村　恭敬
トーマス・ハーディの人と作品について　木羽　一郎
スキフト原作「ガリヴア旅行記」について—原作者の性格並びに作品分析　木原　附
T.S. エリオット作品研究「J.アルフレッド、プルーフロックの恋歌」について　呉山　興在
トマスハーディ著「テス」に於ける方言の研究　小高　健二
ヘミングウエイ作品研究「武器よさらば」　小谷　一夫
マクベスの魔女について　佐々木　務
ヘミングウエイ作品研究「武器よさらば」　斉藤　健次
マクベスに於ける悲劇の主人公について　嶋田喜重郎
シェークスピアの運命観—作品に表れた必然性について—　宗和　美和
シェイクスピアの「あらし」について　武井　一晟
The Old Testament As Literature 文学としての旧約聖書　高城　貞
A study. of Hamlet　田中　直雄
作品「マクベス」に於る魔女について の一考察　槌谷　英子
ヘミングウエイの作品研究　辻田　仁郎
「It」についての研究　徳田　寿
サマセットモームの「人間の絆」について　土井　敏幸
「怒りの葡萄」を中心としてのジョン スタインベックについて　仲島　淳子
P.B. シェリーの生活思想と人間性について　中村　光伸
ユージン・オーニールの研究—特に劇作研究—　西口　稔
悲劇「マクベス」に於ける「order」のあり方　二井　公子
デッケンズの作品に表現されたクリスマス観　法武　郁雄
アメリカ国語の俗語について　花川　潔
自然主義より見たスタインベックの労働者　浜　雄吾
ソーローの森林生活について　逸見　務
サマセット・モーム作品研究「月と六ペンス」　堀　晴矢
On Santiago's view of life in "THE OLD MAN and THE SEA" by Ernest Hemingway　細川　孝典
作品「老人と海」とその人間観について　前田　敏雄
シェイクスピア悲劇作品における女性像　松浦　孝夫
「息子達と恋人達」を通してのD.H. ローレンスの人間性　松崎　義治
シェリの抒情詩についての一考察　三谷　敏子
初期作品における T. ドライザーの自然主義的人間観　村上　英徳
Shakespeare のJulius Caesar における 'thou' 及び 'you' とそれを用いる登場人物関係　森岡　健
失楽園に顕れたるミルトンの人間性研究　八尾　泰生
ハーディ文学の研究—姉の日記について—　山本　弘
サマセットモーム「人間の絆」について　渡辺　一郎

国文学科

芥川竜之介の文学—私小説からみたそれを中心に—　泉　幸佑
文学における内村鑑三の位置　岩田　義則
大宰治の文章　岩崎　利明
芥川竜之介論—初期作品の分析—　猪多　敏之
太宰治論　浦野　昭夫
井原西鶴作唱研究　内山　修造
西鶴の町人物に就いて—主として其

の作品に描かれた金の世界に就いて　内堀　潔
今昔物語集の文体　王子野　篤
井伏鱒二論　小川　修
西鶴の「世間胸算用」について　亀元　義雄
近松作の女の抵抗について　河野　光雄
太宰治の文学「人間失格」論（太宰治の道程反道のプロセスとその意味するもの）　川瑞　義雄
内田魯庵に於ける小説の社会性　—其の廿八日及び社会百面相を中心として—　北田　知子
樋口一葉論　北浦　正晴
長谷川夫溪小論　北岡　淀
近松の「妻敵討もの」について　久保井淳郎
徳富芦花論　斉藤　得三
近松の作品の内容について　佐藤　完函
中学校国語科における文学教育　沢　利政
吉田兼好の美意識について　下井　八重
高村光太郎の詩の過程と人間性について　—精神央を中心に—　玉置　義雄
「破戒」の中の人物について　竹下　忠文
徳田秋声の文学と「縮図」　田中伊佐夫
好色五人女評論　滝本　嘉一
石坂洋次郎論　忠海　十一
山椒太夫考　坪井　滋明
万葉「藤原宮」　辻本　貢造
若山牧水の短歌について　柘植　善治
文楽悲劇の様相　長沢　溥
田山花袋「田舎教師」考　西川　正邦
「西鶴」　西村　博文
前田純孝（翠渓）とその短歌　野崎　淑子
芥川竜之助を論ずる　能木　利雄
東歌の民謡性について　埜中　清市
花袋の「蒲田」とその周辺をめぐって　日笠山岩雄
堀辰雄とリルケ　樋口　幸雄
事態の把握とその表現　小学生作文に見られる傾向について　宝示　重明
明治文学にあらわれた教師像　松本　史朗
田山花袋　森　弘育
志賀直哉の短編作品についての一考察　矢野　年子
文学と能について　—特に関連性—　山口　隆司
徳田秋声の文学　安井康太郎
樋口一葉の研究　—特に作品と生涯との関連性について—　湯谷　哲宏

哲学科

ヤスパースにおける存在論に就いて　岡村　重一
三木清のパスカル人間研究より　大橋　雄伍
N.ハルトマン「道徳現象論」に於ける倫理的価値観と人格について（N.ハルトマン倫理学第一部）—道徳の客観性の基礎づけとしての価値論的一考察—　梶山　弘
シュバイツアーにおける倫理観について　岸野　哲夫
ヘーゲル法理観の展望とその発展　小牟田政博
キェルケゴールの絶望概念　高木　定男
ウイリアムジエームズにおけるプラグマテズム的真理観　橋本　竜徳
ニイチェの宗教批評について　吉田己代三
カントの道徳論について　横島　貞夫

仏文学科

モリエールの作品「守銭奴」について　阿保　弘
ルソーエミールについて　岩崎　美親
アルベール・カミュ論—"Noces"から"L'Homme Revote"までの作品における反抗の思想とその前提としての不原理の思想とについて—　木下　橋
ロマンロランの世界　仲林　宏

独文学科

クライストの文学について　岡田　勇
ハンス・カロッサ著「医師ギオン」に表現された愛について　深沢　豊

史学科

萩生徂徠の政治経済思想研究　尼子　卓司
近世蔭摩藩下における奄美諸島の諸制度について　—職制土地制度家人制度を主として—　院田　公介
日本電気事業界の夜明　上井　楢昭
江戸時代における農民統制　岡田　忠
兵庫県に於ける百姓一揆の特質　小倉　和美
近世農村社会の一面　—封建制下の農民生活について—　川田　定
足尾銅山について　楠本　愛子
キリシタンの追害について　—江戸時代を中心にして—　黒飛　俊蔵
近世封建社会における中間層の問題　—特に司馬江漢の場合　小西　義久
新劇史の研究　寺尾庄八郎
江戸時代に於ける分地制限令とその背景　—相続形態より見たる一考察—　寺尾　吉弘
近畿の晩期縄文土器　友寄　景仁
日本産業革命成立史　長井　保夫
日本映画のあゆみ　中林　鉄城
日本城郭史より見た姫路城　林　義夫
明治維新における歴史家としての福沢諭吉　福西　正亘
林子平の海防論　—日露情勢の考察を中心として—　藤野　清
河内高屋城の興亡について　松沢　重夫
徳川時代に於ける通信制度について　前沢　修二
中世に於ける江口の里について　森井　忍

新聞学科

モチベーションに関する広告実践の研究　石田　恵造
教育の場に於けるマス・コミニィケーションの動向　伊佐田政雄
日本新聞発達史「政論時代と政党機関紙時代」　荻野　享
新聞意識の志向性とその社会的条件　樋野　敏男
現代新聞に対する批判と注文　兼次　政武
野球ブームとスポーツ新聞について　北浦　一男
初期の政党新聞　熊谷　昇
広告の技術とその効果　田中　好一

校友バッジ

校友

校友会の動き　二月

六　日　愛知支部青年部会
十三日　堺市役所関大会結成式
十四日　常議員会
二十一日　守口支部総会
二十三日　組織部会
二十四日　広報部会
二十六日　旭支部総会
二十八日　京都支部総会

愛知支部青年部会

愛知支部では、支部総会がとかく老壮年を主体としたものになりがちなため、青年部会を結成して支部活動を活発にすることになり、二月六日午後六時半から名古屋温泉パレスで青年部会を開催した。

この日は支部長はじめ支部幹部も多数出席、岡田青年部副部長が司会し、安井同部長が挨拶して開会。そのあと松広支部長が支部創生時代の苦心談など語り、青年部の若い力に期待する挨拶があつた。

議題として支部報発行の計画などを検討したあと、温泉をあがつて懇親会に移つた。手品やはだか踊りに興じたあと、色紙に寄せ書きし、学歌を斉唱して閉会した。

常議員会

校友会では二月十四日午後一時半から大阪府職員会館で常議員会を開催。

この日の出席者は大月会長以下十六名という状態であつたが、議題として第一に高速道路学内通過反対問題の経過報告に入り、阿部大学反対本部副本部長が詳細にわたつて報告、種々質疑があつた。で、反対趣旨の認識を得るため、校友会としてもPRに積極的に協力することなどを決定した。

続く第二の議題たる関大会館建設委員委嘱の件は建築専門家その他、あわせて約二十名追加委嘱するとの部長会決定案が承認され、大月会長にその人選を一任した。そのあと、財務中間報告、近鉄関大支部承認の件が上提されたほか、総務部で校友会表彰規定案を検討することなどが決められ、午後四時半閉会した。

守口支部総会

守口支部では二月二十一日午後六時から「みつわ」に於て総会を開催。

まず左海幹事長から総会開催経過など報告、本多支部長が挨拶した後、校友会から出席の樫本副会長から関大会館建設問題、高速道路学園内通過問題などについて詳しい説明があつた。とくに高速道路問題には支部会員から熱心な質問が寄せられた。総会は午後九時二十分閉会した。

旭支部総会

旭支部では二月二十六日午後七時すぎから、桜宮会館で総会を開催。

当日は在学生も多数出席、大学ならびに本部から出席の久井専務理事、大月会長らの大学現状報告や道路問題の経過報告を熱心に聞き入つた。安橋副支部長の緊急提案で高速道路千里山学園内通過絶対反対を決議し、決議文を関係先に送付するなど運動をすることになつた。そのあと全員で和やかに懇親会を開き、午後十時無事散会した。

京都支部総会

京都支部では二月二十八日午後五時から京都市内御池寮で総会を開催。

議題として役員改選を行つたのち、今後、会員相互の連絡を密にするため、春秋二季のほか毎月一回随時懇談会を行い、知見をひろめ、親和の実をあげることになつた。

校友会から出席した大月会長は問題の高速道路通過の件につき、反対運動の概要を説明、また関大会館建設問題にも言及した。

一同などやかにすき焼鍋をつついて母校のことを語り合い、最後に万歳を三唱して午後九時閉会した。

当日決定役員
支部長　岩佐清三郎
副支部長　中野一雄、山口多賀蔵

昭和31年　校友名簿

在学時代の友を想うよすがに、
また、卒業後の親睦連絡に、
この一冊を備えて御利用下さい
―収載人員二六、〇〇〇余名―
B5判　六〇〇頁
実費頒価五〇〇円
（送料当方負担）

申込先　關西大學校友課
大阪市大淀区長柄中通二丁目
振替大阪一二八七五番

マスメディアとしての放送の機能と責任　武田　信孝
戦時下の新聞の弾圧と抵抗　谷口　義弘
編集権の諸問題　冨島　光
新聞の任務　平野　道昭
新聞広告について　深井　章輝
マス・コミニューケーションと子供の生活　藤野　和雄
学生新聞の特殊性とその現状　丸山寿賀子
広告の心理学的分析　溝畑　肇
マスコミの受ける影響　―理代の広告報導等の影響を受ける作用心理的な影響実際面に於いての影響　米倉　饒

東洋文学科
屈原ノート　蔭木　英雄

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
昭和三十四年三月三十日発行（毎月一回三十日発行）

關西大學學報　第三二五号　三月号

編集兼発行人　久井忠雄
発行所　關西大學出版部
大阪市大淀区長柄中通二丁目
電話堀川(35)二〇七二番
振替大阪二六七二番
印刷所　株式会社　ナニワ印刷所
電話(35)七二七一

昭和34年度　關西大學入学試験概要

学部

		(一部)	(二部)
法学部	法律学科 政治学科	400名	400名
経済学部		300名	400名
文学部	英文学科 国文学科 哲学科 史学科 仏文学科 独文学科 新聞学科 東洋文学科	320名	300名
商学部		300名	150名
工学部	機械工学科 電気工学科 化学工学科 金属工学科	150名	

（出願期間及び試験日）

	出願期間	試験日
地方試験（高松，福岡，広島，金沢，名古屋各地）		
（一部全学部）…	昭和34年1月19日～2月18日	2月24日
経済学部…	〃 2月21日	2月24日
法学部…	〃 2月23日	2月25日
商学部…	〃 2月24日	2月26日
文学部…	〃 2月25日	2月27日
工学部…	〃 2月26日	2月28日

（試験科目）
法・経・文・商学部…国語、英語、社会、数学（簿記）（二科目選択）
工学部…理科（物理、化学の中一科目）、英語、数学

大学院

博士課程	法学研究科 {公法学専攻 / 私法学専攻}	10名
	文学研究科 {国文学専攻 / 哲学専攻}	4名
	経済学研究科 {金融経済・経済史専攻}	3名
修士課程	法学研究科 {公法学専攻 / 私法学専攻}	60名
	文学研究科 {英文学専攻 / 国文学専攻 / 哲学専攻 / 日本史学専攻}	60名
	経済学研究科 {経済学専攻}	50名

（出願期間）
昭和34年3月2日～3月23日

（試験日）
昭和34年3月26日、27日（2日間）

（試験科目）
博士課程…主論文、副論文、外国語
修士課程…論文、外国語

なお、詳細については「昭和34年度關西大學學生募集要項」を参照されたい。

關西大學教授
關西大學東西學術研究所員　壺井義正編

關西大學泊園文庫藏書書目

第二編

A5判　二八〇頁
布クロース上製

大阪の庶民学苑を築いた藤沢東畡、南岳、黄鵠、黄坡先生と三世四代相継がれた泊園書院の蔵書を黄坡元本学名誉教授故藤沢章二郎先生が長年の縁を以て本学に寄贈せられたが、本書はその貴重な蔵書書目の第二編である。
なお、第一編は目下印刷過程中である。

目次

卷一　経部
第一　諸経類
第二　易類
第三　書類
第四　詩類
第五　礼類
第六　春秋類
第七　四書類
第八　孝経類
第九　諸経総義類
第一〇　小学類

卷二　史部
第一　正史類
第二　諸史類
第三　載記類
第四　詔令奏議類
第五　伝記類
第六　地理類
第七　職官政書類
第八　書目金石類
第九　史鈔史評史料類
第一〇　図表地図類

第三　子部
第一　諸子合刻　子類叢刻類
第二　諸子類
第三　芸術類
第四　類書類
第五　勸善書類

第四　集部
第一　楚辞類
第二　別集類
第三　総集類
第四　尺牘類
第五　詩文評詩文話類
第六　詩典小説類

刊行　關西大學
刊行取扱　關西大學出版部